



## 梅雨の気配

梶原 道幸

(熊本)

このごろの私

コロナ感染症の影響大で、仕事も減少し、毎日がのんびりとした生活。もっぱら近隣を歩き廻って体力維持に努めています。初夏の山峡の新緑が力を呉れているようで、時にはうたも生まれます。

ボクが高校にゆくころ祖母ちゃんまだゐるかなあと言ひし優作  
ちからなくある日詩乃が電話せり「日曜だから遊びたい」つて  
妻ゐぬを狙つたやうに電話して「電力が安くなる」と言ふ男あり  
千年余左右の肩に四つ五つ載せてさぞかし熱かるよ妻は  
魚屋の清ちゃんがさかな揚げてゐるかかるにほひのとどく雨の日  
人の気の絶えて久しき裏の家何が棲むやら雨戸かたぶく  
あきらかに退屈をして見てゐたり雨の窓辺に草の濡るるを  
「厭な奴のひとりふたりはゐるものさ」軒の燕のおしやべり聞こゆ  
車庫の中マット叩きて素振りする喜寿となりしがゴルフが好きで  
九十五年の生涯かけて詠みましし歌の一首を葬儀にかざる  
あしひきの山にただよふ梅雨の気配木天蓼またたびの白い花がひらきて  
山の田にここと音して行く水のひとところ溢れ道に流るる  
わやわやと竹の子伸びる六月の汗ばむ空も憎からずして  
台風のいたぶる山にうち伏して矢弾尽きたる体の姥百合  
岡山の三宅さんちの泥鱈汁何故か忘れず六十年が経てど



## あーとうー

高橋梨穂子

(新潟)

このごろの私  
ラジオをよく聴く。メッセ  
ージを送ることも。新潟県の  
二十代女性、ラジオネームう  
すしお。ラジオから聞こえる  
と、自分のこともすこし他人  
のことみたいで不思議。知ら  
ない曲との出会いも楽しい。

赤ちゃんのお世話グッズを詰めこんで根拠地になるカラーボックス

こんなにもつよく誰かを恋うなんて生まれてはじめて絵馬書くなんて

俳優の訃報を受けて候補からはずした名前一度だけ呼ぶ

新生児微笑とどめておきたくてとっさに撮った写真の手ぶれ

シロクマの模様をキグマにした夕べ便通さえも日記に残す

ゆつくりと歌えばみんな子守唄イエローサブマリン深い鼻呼吸

明日きみはなにいろだろう赤ちゃんと言ったりみどりごと言ったり

西松屋のレシート挟みながら読む谷川俊太郎詩集に宇宙

まだ一か月かもう一か月か新生児用オムツ最後の一枚となる

きみだけの声でわたしを呼ぶきみにわたしはわたしの声で応える

鼻吸いできゅぽんと吸えた鼻くそも愛しく思う不思議な気持ち

きみを抱き鳥の声聞く窓辺にはぴったりふたりぶんの日だまり

懸命なきみのおしゃべり聴く日々に世界はあーとうーでできてる

あたたかい水をわたしはお湯と呼ぶきみの額にシャワー当てつつ

このゆびをつかんで放してそれつきりきみはそうしておおきく育つ